

# 日本気象予報士会とその活動

日本気象予報士会会長  
酒井重典



# 気象予報士と日本気象予報士会

## ■ 気象予報士

- ◆ 気象庁の最新の観測データや数値予報資料などを正確に理解して、的確に気象予報を行うことができる知識や技術を持っていると認められた資格者
- ◆ 平成21年2月12日現在6,845名  
(男性6,018名 女性827名)

## ■ 日本気象予報士会

- ◆ 会員の技術の研鑽や、気象を通して社会への貢献を主な目的として、平成8年に設立された気象予報士の全国的な組織
- ◆ 会員数は平成21年2月1日現在2,771名  
(男性2,459名 女性312名)、組織率40.5%
- ◆ 会員は、広く全国に分布
- ◆ 平成21年度中に一般社団法人化を予定

# 日本気象予報士会支部

北海道気象予報士会

青森気象予報士会

新潟支部

長野支部

北陸支部

岡山支部

山陰支部準備会

西部支部

広島県支部

四国支部

鹿児島支部

関西支部

東海支部

静岡支部

山梨支部

神奈川支部

東京支部

埼玉支部

北関東支部

東北支部

(沖縄地方)

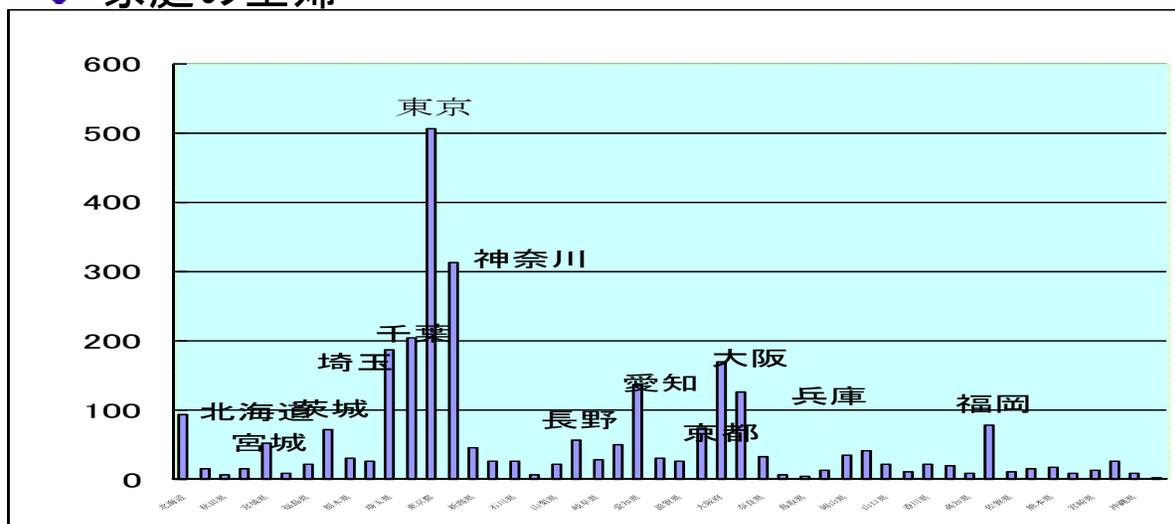


CAMJ

# 会員構成

- 大部分が気象予報士としての知識の他に、さまざまな分野の専門知識を併せもった多種多様な会員で構成

- ◆ 教員や医師、弁護士、大学教授や各種研究機関研究者や学生
- ◆ 流通や金融機関、IT関連、各種製造業、建設土木部門やエネルギー関連などの企業の社員
- ◆ 報道関係や出版分野、飛行機のパイロット
- ◆ 家庭の主婦



# 主な活動

- 気象予報士としての技能の研鑽
- 社会貢献活動(特に気象知識の普及)
  - ◆ 出前授業(小・中・高校での気象の授業)
  - ◆ 地域住民への気象解説や気象を話題にした講演
  - ◆ 地域の防災訓練への参加
- 国家気象行政に対する側面的支援
- 気象を通じての国際活動



# 気象関連機関等との連携

気象関連機関と連携し気象を通して社会へ貢献

## ■ 気象庁との連携

- ◆ 気象科学館の説明員としての活動。毎週土曜、夏休み土日
- ◆ 全国気象官署実施の「お天気フェア」等への協力

## ■ 日本気象学会との連携

- ◆ 秋季大会におけるスペシャルセッションへの運営。次回は「気象知識(特に防災)の普及」を企画中
- ◆ 気象サイエンスカフェ(一般市民を対象とした気象知識の普及)の共催
- ◆ 「夏季大学」、「公開気象講演会」を支援



# 今後の主な活動計画

- 民間気象ニーズにきめ細かく応じるための気象予測・予報技術の研究・開発
- 気象予報士の擁護ならびに活動場の拡充
- 既存の民間気象事業に対する支援、新たな民間気象事業の協同振興